
Be a ChangeBuilder.
安藤ハザマ
2027年3月期 第2四半期(中間期)決算説明会
2026年11月17日

目次

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

1 P.3
2027年3月期中間期 決算の概況
決算サマリー(上半期の状況 / 決算概況) / 経営成績 / 財政状態 / キャッシュ・フロー

2 P.8
2027年3月期中間期 個別決算の詳細
土木事業 / 建築事業 / 土木・建築合計 / 東海第二発電所において確認された事象について

3 P.13
2027年3月期通期の業績見通し
2027年3月期 通期の業績見通し / 【個別】業績予想(土木事業 / 建築事業 / 土木・建築合計)

4 P.18
「中期経営計画2028」進捗状況
事業戦略の深化・経営基盤の強化 / 戦略投資 / 政策保有株式の縮減

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

1. 2027年3月期中間期 決算の概況



上半期の建設業界の状況といたしましては、

国内では、資材価格・労務費の動向や、労務確保のひっ迫に注視が必要な状況が続いたものの、政府建設投資、民間建設投資ともに概ね堅調に推移しました。
海外では、北米エリアや東南アジアで、日系企業による生産施設の投資が継続しました。

このような状況の中、当中間期の業績は、大型工事の進捗や採算性向上などにより、前年同期比で増収増益となりました。

詳細については、次のスライドよりご説明いたします。

【連結】経営成績

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

(単位:百万円)

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期			
	実績	実績	前年同期比		進捗率(5月公表予想比)
			増減額	増減率	
売上高	201,023	228,016	+26,992	+13.4%	46.5%
売上総利益	27,097	34,646	+7,549	+27.9%	51.2%
(売上総利益率)	(13.5%)	(15.2%)	(+1.7pt)	(—)	(—)
販売費及び一般管理費	15,021	15,994	+973	+6.5%	47.5%
営業利益	12,076	18,651	+6,575	+54.5%	54.9%
(営業利益率)	(6.0%)	(8.2%)	(+2.2pt)	(—)	(—)
経常利益	11,321	20,054	+8,733	+77.1%	59.7%
親会社株主に帰属する中間純利益	7,752	14,299	+6,546	+84.4%	64.4%
1株当たり中間配当額	40円	42円	+2円	—	—

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

「連結売上高」は、大型工事の順調な進捗により、
前年同期比13.4%増加の2,280億円となりました。

利益につきましては、
人財投資の推進などにより販売費及び一般管理費が増加したものの、
完成工事高の増加や工事の採算性向上などに伴い売上総利益が増加したことにより、

「営業利益」は前年同期比54.5%増加の186億円、

「親会社株主に帰属する中間純利益」は、84.4%増加の142億円となりました。

【連結】財政状態

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

(単位:百万円)

	前中間期末 2025年9月30日	前期末① 2026年3月31日	当中間期末② 2026年9月30日	前期末比 ② − ①
流動資産	258,551	300,735	317,361	+16,625
固定資産	95,355	110,839	122,485	+11,645
資産合計	353,906	411,575	439,847	+28,271
流動負債	154,814	186,382	198,601	+12,218
固定負債	14,777	15,812	19,690	+3,877
負債合計	169,592	202,195	218,291	+16,096
純資産	184,313	209,380	221,555	+12,175
負債純資産合計	353,906	411,575	439,847	+28,271
有利子負債	29,622	27,515	29,048	+1,532
D/Eレシオ※(倍)	0.16	0.13	0.13	△0.00
自己資本比率(%)	51.8	50.6	50.1	△0.5pt

※ D/Eレシオ:有利子負債/自己資本(純資産−非支配株主持分)

ポイント

<資産>
■ 現金預金、投資有価証券が増加

<負債>
■ 未成工事受入金や繰延税金負債が増加

<純資産>
■ 利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加

参考(2026年9月30日時点)
1株当たり純資産額 : 1,404.49円
株価 : 1,829円
PBR : 1.30倍

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

連結財政状態については、

「資産」は、現金預金や未成工事支出金の増加に加え、
保有する上場株式の評価額上昇に伴う投資有価証券の増加などにより、
前期末から282億円増加の、4,398億円となりました。

「負債」は、未成工事受入金や繰延税金負債の増加などにより、
前期末から160億円増加の、2,182億円となりました。

「純資産」は、利益剰余金やその他有価証券評価差額金の増加などにより、
前期末から121億円増加の、2,215億円となりました。

この結果、「自己資本比率」は、前期末から0.5pt低下し、50.1%となりました。

【連結】キャッシュ・フロー

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

(単位:百万円)

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	ポイント
現金及び現金同等物の期首残高	55,772	64,591	ー
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,784	14,834	税金等調整前中間純利益の計上、未成工事受入金の増加等により、資金増加。
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,812	3,523	有価証券及び投資有価証券の売却による収入等により、資金増加。
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,127	△5,255	配当金の支払い等により、資金減少。
現金及び現金同等物に係る換算差額	△71	43	―
現金及び現金同等物の増減額	3,772	13,146	―
現金及び現金同等物の中間期末残高	59,545	77,738	―

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

次に、連結キャッシュ・フローの状況です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、
税金等調整前中間純利益の計上や未成工事受入金の増加などにより、
148億円の資金増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、
有価証券及び投資有価証券の売却による収入などにより、
35億円の資金増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いなどにより、
52億円の資金減少となりました。

以上により、現金及び現金同等物の中間期末残高は、
期首から131億円増加の777億円となりました。

2. 2027年3月期中間期 個別決算の詳細

続きまして、個別決算の詳細について、ご説明します。

【個別】土木事業

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期			
	実績	実績	前年同期比		進捗率 (5月公表予想比)
			増減額	増減率	
受注高	30,540	64,202	+33,661	+110.2%	45.9%
国内	30,637	63,265	+32,628	+106.5%	47.6%
海外	△96	936	+1,032	—	13.4%
完成工事高	67,399	63,986	△3,413	△5.1%	45.7%
完成工事総利益	10,516	9,798	△717	△6.8%	45.8%
(完成工事総利益率)	(15.6%)	(15.3%)	(△0.3pt)	(—)	(—)
繰越高	234,637	274,210	+39,573	+16.9%	—

(単位:百万円)

■ 主な受注工事

仙台市	(国)286号(南赤石)1号トンネル工事
石川県	6災1239号外 二級河川八ヶ川 河川災害復旧工事
中国電力株式会社	明塚(発)水車・発電機ほか取替工事

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

9

土木事業につきましては、

「受注高」は、発電所関連工事や複数の総合評価案件を受注したことにより、
前年同期を上回り、110.2%増加の642億円となりました。

「完成工事高」は、前年同期比5.1%減少の639億円となりましたが、
手持ち工事は概ね順調に進捗しております。

「完成工事総利益」は、完成工事高の減少に伴い、6.8%減少の97億円、
率は、0.3pt低下の15.3%となりました。
「繰越高」は、16.9%増加の2,742億円となりました。

【個別】建築事業

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期			
	実績	実績	前年同期比		進捗率（5月公表予想比）
			増減額	増減率	
受注高	128,692	141,375	+12,682	+9.9%	44.2%
国内	119,928	137,073	+17,145	+14.3%	44.5%
海外	8,764	4,301	△4,462	△50.9%	35.8%
完成工事高	118,425	148,759	+30,333	+25.6%	48.0%
完成工事総利益	14,753	22,356	+7,602	+51.5%	55.6%
（完成工事総利益率）	（12.5%）	（15.0%）	（+2.6pt）	（—）	（—）
繰越高	296,634	406,806	+110,172	+37.1%	—

（単位：百万円）

■ 主な受注工事

仙台長町2施設開発特定目的会社	（仮称）DPL仙台長町Ⅱ新築工事
東日本地域における生乳需給調整基幹施設コンソーシアム	東日本地域における生乳需給調整基幹施設コンソーシアムが整備する乳製品加工施設建設工事
丸紅都市開発株式会社・東急不動産株式会社	（仮称）広島市中区銀山町ホテル計画 新築工事

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

建築事業につきましては、

「受注高」は、事業量と採算性のバランスを図りながら、
物流施設を中心に生産施設やホテルなど様々な工事を受注し、
前年同期比9.9%増加の1,413億円となりました。

「完成工事高」は、大型工事が順調に進捗したことから、
前年同期比25.6%増加の1,487億円、

「完成工事総利益」は、完成工事高の増加に加え、進行中工事の所要原価の見直し、
上半期に竣工した案件における利益改善が寄与し、
51.5%増加の223億円、利益率は15.0%となりました。

「繰越高」は、37.1%増加の4,068億円となりました。

【個別】土木・建築合計

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期			
	実績	実績	前年同期比		進捗率（5月公表予想比）
			増減額	増減率	
受注高	159,233	205,577	+46,344	+29.1%	44.7%
国内	150,565	200,339	+49,774	+33.1%	45.4%
海外	8,667	5,237	△3,429	△39.6%	27.6%
完成工事高	185,824	212,745	+26,920	+14.5%	47.3%
完成工事総利益	25,270	32,154	+6,884	+27.2%	52.2%
(完成工事総利益率)	(13.6%)	(15.1%)	(+1.5pt)	(—)	(—)
繰越高	531,271	681,017	+149,745	+28.2%	—

(単位:百万円)

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

以上により、土木・建築合計では、
「受注高」は、前年同期比29.1%増加の2,055億円、
「完成工事高」は、14.5%増加の2,127億円、
「完成工事総利益」は、27.2%増加の321億円、率は、1.5pt上昇の15.1%、
「繰越高」は、28.2%増加の6,810億円となりました。

東海第二発電所において確認された事象について

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

■ 工事概要

工 事 名	東海第二発電所 防潮堤(海水ポンプ室エリア区間)設置他工事
発 注 者	日本原子力発電株式会社
施 工 者	安藤ハザマ・五洋・若築共同企業体
工事場所	茨城県那珂郡東海村

■ これまでの状況

- 2024年5月14日付「(開示事項の経過)施工中の工事に係る追加費用等の発生について」にて公表したとおり、当社を代表者とする共同企業体が施工中の上記工事のうち、鋼製防護壁基礎工事(南基礎・北基礎)における事象(以下「本件」)に関し、2024年3月期末時点において、本件が損益に与える影響として、約62億円の追加費用等を見込んでいる。

■ 現在の状況

- 発注者様を含む工事関係者各位とともに、本件に係る補修計画について検討を継続中。
- 原子力規制委員会による審査会合において、防潮堤の構造変更案の設計が概ね妥当であることが示された。

■ 品質確保に向けた当社の対応

- 大型高難度工事に対しては、従前から、本社からの支援体制を整備し対応。本件を受け、社長直轄・副社長管掌部門の「徹底的に品質にこだわるプロジェクト」を新設し、現場支援体制を強化。
- 施工部門と技術部門からより経験豊富なエキスパートを各工事の支援担当者として配置し、組織的なモニタリングと支援体制の強化により、リスク管理の徹底とリスクの未然防止を図り、品質を最優先に対応。

■ 今後について

- 補修計画の確定等により、業績への影響が重要であると判明した場合には、適時適切に開示。

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

東海第二発電所において確認された事象につきましては、
現在も、発注者様を含む工事関係者各位とともに、本件に係る補修計画について
検討を継続しております。

本年8月の審査会合では、原子力規制委員会より、
防潮堤の構造変更案の設計が概ね妥当であることが示されました。

今後、補修計画の確定等により、業績への影響が重要であると判明した場合には、
適時適切に開示いたします。

ここまで、2027年3月期中間決算について、ご説明しました。

3. 2027年3月期 通期の業績見通し

次に、2027年3月期通期の業績見通しをご説明します。

2027年3月期 通期の業績見通し

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

市場環境の認識	
国内土木	政府建設投資は堅調に推移
国内建築	民間建設投資は堅調に推移
海外	米国の通商政策による生産施設投資への影響に注視が必要
資材・労務	中東情勢の影響、資材価格・労務費の動向、労務のひっ迫に注視が必要

【連結】業績予想 (単位:百万円)

	2026年3月期	2027年3月期			(参考)2027年3月期	
	実績	期初予想(5月公表)	修正予想(11月公表)	増減	中間期実績	進捗率(修正予想比)
売上高	439,615	490,000	480,000	△2.0%	228,016	47.5%
売上総利益	63,959	67,700	71,300	+5.3%	34,646	48.6%
(売上総利益率)	(14.5%)	(13.8%)	(14.9%)	(—)	(15.2%)	(—)
販売費及び一般管理費	30,341	33,700	33,700	±0.0%	15,994	47.5%
営業利益	33,618	34,000	37,600	+10.6%	18,651	49.6%
(営業利益率)	(7.6%)	(6.9%)	(7.8%)	(—)	(8.2%)	(—)
経常利益	33,257	33,600	38,800	+15.5%	20,054	51.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	29,746	22,200	26,900	+21.2%	14,299	53.2%
1株当たり年間配当額	80円	84円	84円	±0円		

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

国内の市場環境は上半期と同様の堅調な状況が継続すると見込んでおります。
海外については、引き続き、
米国の通商政策による生産施設投資への影響を注視しております。

また、中東情勢の影響や資材価格・労務費の動向、
労務のひっ迫にも注視が必要な状況が続くと認識しております。

このような事業環境の中、当社は、これまでご説明してきた業績の動向等を踏まえ、
5月に公表した連結通期業績予想を修正いたしました。
5月の公表と比較して、
「売上高」は、2.0%減少の4,800億円、
「営業利益」は、10.6%増加の376億円、
「親会社株主に帰属する当期純利益」は、21.2%増加の269億円としております。

配当につきましては、中期経営計画2028で導入した累進配当の方針のもと、
安定的な配当が可能な水準を勘案し、
前期から4円増配の年間84円を予定しております。

【個別】土木事業 業績予想

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

(単位:百万円)

	2026年3月期	2027年3月期			(参考)2027年3月期	
	実績	期初予想(5月公表)	修正予想(11月公表)	増減	中間期実績	進捗率(修正予想比)
受注高	143,578	140,000	140,000	±0.0%	64,202	45.9%
国内	139,524	133,000	133,000	±0.0%	63,265	47.6%
海外	4,054	7,000	7,000	±0.0%	936	13.4%
完成工事高	141,127	140,000	135,000	△3.6%	63,986	47.4%
完成工事総利益	22,870	21,400	20,000	△6.5%	9,798	49.0%
(完成工事総利益率)	(16.2%)	(15.3%)	(14.8%)	(△0.5pt)	(15.3%)	(—)
繰越高	273,971	273,971	278,971	+1.8%	274,210	—

※ 2027年3月期末繰越高は、以下の数式により便宜的に算出
「2026年3月期末繰越高」+「2027年3月期予想受注高」−「2027年3月期予想完成工事高」

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

土木事業につきましては、

「受注高」は、5月の公表から変わりなく、1,400億円、
「完成工事高」は、3.6%減少の1,350億円、
「完成工事総利益」は、6.5%減少の200億円、率は0.5pt低下の14.8%を見込んでおります。

受注については、当社がターゲットとする総合評価案件の大型土木工事や、
老朽化したインフラの維持更新事業、エネルギー関連施設への取り組みを継続します。

また、土木、建築ともに、継続的かつ拡大する需要が見込まれる
国土強靭化に向けた防災・減災対策および防衛関連施設整備にも取り組んでまいります。

利益については、引き続き、工事原価管理の徹底や設計変更の獲得により
採算性の維持・改善に努めます。

【個別】建築事業 業績予想

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

(単位:百万円)

	2026年3月期	2027年3月期			(参考)2027年3月期	
	実績	期初予想(5月公表)	修正予想(11月公表)	増減	中間期実績	進捗率(修正予想比)
受注高	390,005	320,000	320,000	±0.0%	141,375	44.2%
国内	374,963	308,000	308,000	±0.0%	137,073	44.5%
海外	15,041	12,000	12,000	±0.0%	4,301	35.8%
完成工事高	262,257	310,000	300,000	△3.2%	148,759	49.6%
完成工事総利益	35,942	40,200	45,000	+11.9%	22,356	49.7%
(完成工事総利益率)	(13.7%)	(13.0%)	(15.0%)	(+2.0pt)	(15.0%)	(—)
繰越高	414,219	424,219	434,219	+2.4%	406,806	—

※ 2027年3月期末繰越高は、以下の数式により便宜的に算出
「2026年3月期末繰越高」+「2027年3月期予想受注高」−「2027年3月期予想完成工事高」

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

建築事業につきましては、

「受注高」は、5月の公表から変わりなく、3,200億円、
「完成工事高」は、3.2%減少の3,000億円、
「完成工事総利益」は、11.9%増加の450億円、
率は2.0pt上昇の15.0%を見込んでおります。

受注については、建設コストの高止まりや中東情勢などの影響を注視しつつ、
引き続き一定の需要が見込まれ、実績の多い物流施設や生産施設を中心に
受注活動を展開してまいります。

利益については、資材価格の状況を注視し、
物価上昇分は工事価格に転嫁することを交渉していくとともに、
手持ち工事の確実な進捗と原価管理の徹底により、
更なる利益向上を目指してまいります。

【個別】土木・建築合計 業績予想

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

(単位:百万円)

	2026年3月期	2027年3月期			(参考)2027年3月期	
	実績	期初予想(5月公表)	修正予想(11月公表)	増減	中間期実績	進捗率(修正予想比)
受注高	533,583	460,000	460,000	±0.0%	205,577	44.7%
国内	514,487	441,000	441,000	±0.0%	200,339	45.4%
海外	19,095	19,000	19,000	±0.0%	5,237	27.6%
完成工事高	403,384	450,000	435,000	△3.3%	212,745	48.9%
完成工事総利益	58,813	61,600	65,000	+5.5%	32,154	49.5%
(完成工事総利益率)	(14.6%)	(13.7%)	(14.9%)	(+1.3pt)	(15.1%)	(—)
繰越高	688,190	698,190	713,190	+2.1%	681,017	—

※ 2027年3月期末繰越高は、以下の数式により便宜的に算出
「2026年3月期末繰越高」+「2027年3月期予想受注高」−「2027年3月期予想完成工事高」

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

以上から、土木・建築合計の業績予想は、

「受注高」は、5月の公表から変わりなく、4,600億円、
「完成工事高」は、3.3%減少の4,350億円、
「完成工事総利益」は、5.5%増加の650億円、率は1.3pt上昇の14.9%を見込んでおります。

ここまで、2027年3月期の業績見通しをご説明しました。

4.「中期経営計画2028」の進捗状況

(2027年3月期～2029年3月期)

続いて、「中期経営計画2028」の進捗についてご説明します。

事業戦略の深化・経営基盤の強化

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

Helical Fusionと資本業務提携「ヘリックス計画」公式パートナーに参画

フュージョンエネルギー(核融合)による実用発電の達成および産業創造に向けて株式会社Helical Fusionと資本業務提携、同社が主導する「ヘリックス計画」に公式パートナーとして参画。
併せて、2030年代の稼働を予定する発電初号機「Helix KANATA」の建設に向け、基本合意書を締結。



フュージョンエネルギー(核融合)

太陽の輝きと同じ原理を地上で再現することで得られるエネルギー。世界的なエネルギーの課題を抜本的に解決する技術として期待される。

当社の役割

電力の安定供給に寄与する電力関連施設の建設事業で培った知見と技術を活かし、建設分野での課題に取り組む。

https://www.ad-hzm.co.jp/info/2026/20260706_02.php

神戸高専と建設工事へのフィジカルAI活用で共同研究を開始

神戸高専と、フィジカルAIを活用した建設機械自動化に関する共同研究を開始。2026年4月から、ヒューマノイドロボットによる自動操作を目指して実証を本格化。
建設業の人手不足への対応と、生産性・安全性の向上を目指す。

背景

建設業界の深刻な人手不足を背景とした、現場状況に応じた判断が可能なフィジカルAIへの期待の高まり。

研究概要

建機自動化とAIロボティクスの技術を融合し、大型油圧ショベルの自動操作に着手。

今後の展望

フィジカルAIの有効性を確認後、他の建設機械の自動化や有人作業の代替へ適用を拡大。



ヒューマノイドロボットによる大型油圧ショベル操作



ロボットハンドを用いた操縦イメージ

https://www.ad-hzm.co.jp/info/2026/20260804.php

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

はじめに、当上半期の取り組みを2つご紹介します。

一つ目は、フュージョンエネルギー実用化に向けた取り組みです。
当社は、株式会社Helical Fusionと資本業務提携し、
併せて、同社が主導する「ヘリックス計画」に公式パートナーとして参画しました。
フュージョンエネルギーは、将来の電力の安定供給への貢献が期待される技術です。
これまで電力関連施設の建設で培ってきた知見と技術を活かし、
建設分野での課題に取り組んでまいります。

二つ目は、フィジカルAIを活用した建設機械の自動化に向けた取り組みです。
当社は、神戸市立工業高等専門学校と共同研究を開始し、本年4月より、
ヒューマノイドロボットによる建設機械の自動操作に向けた実証を本格化しています。
今後は、フィジカルAIの有効性を確認したうえで、ほかの建設機械や作業への適用を広げ、
建設業の人手不足への対応と、生産性・安全性の向上を目指してまいります。

戦略投資

Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

- 生産性向上およびさらなる強みの強化のための技術開発・イノベーション投資を促進
- 脱炭素社会の実現に向けたエネルギー事業投資を推進

		中期経営計画2028		進捗状況
		26~28年度	2026年度	
		計画	中間期実績	
人財投資		200億円	11.4億円	・継続的な報酬UP(定昇、ベア、賞与、諸手当、昇格等)。 ・キャリア採用強化を継続。
成長投資	技術開発・イノベーション投資	250億円	27.0億円	・トンネル坑内における遠隔施工管理の実現に向け、IOWN®技術を活用したトンネル坑内での大容量高速データ通信の実証実験を実施。 ・フィジカルAIを活用した建設機械自動化に関する共同開発を開始。 ・フュージョンエネルギー実用化に向け、㈱Helical Fusionとの資本業務提携を実施。発電初号機建設に向けた基本合意書を締結。
	エネルギー事業投資 他	200億円	23.6億円	・当社の系統用蓄電池事業における第1号案件となる栃木県栃木市岩舟町蓄電所が運転開始(2026年9月)。 ・当社の保有する発電所として最大規模となる美唄市茶志内太陽光発電所が運転開始(2026年9月)。
	その他設備投資	50億円	5.9億円	・業務プロセス最適化のため、原価管理システムのリプレース等のDX関連投資を継続して実施。
		500億円	56.5億円	

©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

続いて、戦略投資の進捗についてご説明します。

中期経営計画2028では、3年間で人財投資に200億円、
成長投資に500億円を計画しております。

このうち、人財投資の中間期実績は11.4億円となりました。
継続的な処遇改善に加え、キャリア採用の強化を進めております。

成長投資の中間期実績は56.5億円となりました。

技術開発・イノベーションの分野では、トンネル坑内の遠隔施工管理に向けた実証実験や、
フィジカルAIを活用した建設機械の自動化、
核融合の実用化に向けた取り組みを進めております。

エネルギー事業では、当社の第1号案件となる系統用蓄電所が9月に運転を開始しました。
また、同じく9月に、当社の保有する発電所として最大規模となる太陽光発電所の運転を開始しております。

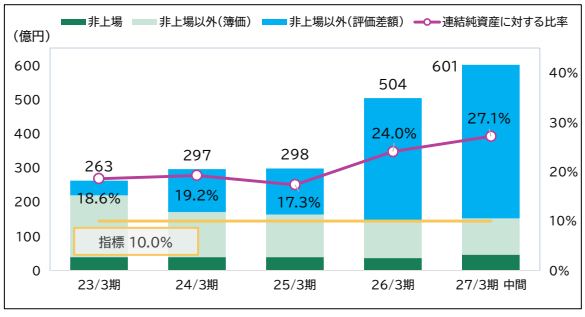
引き続き、生産性の向上と当社の強みの強化、
そして脱炭素社会の実現に向けた投資を進めてまいります。

政策保有株式の縮減

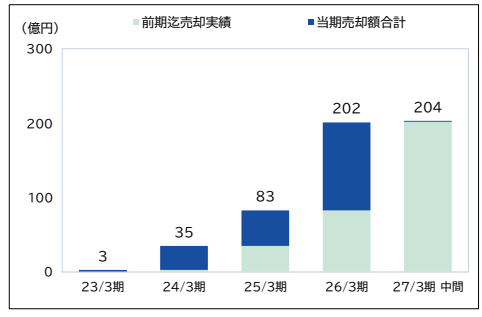
Be a ChangeBuilder. 安藤ハザマ

縮減目標	中期経営計画2028の早期に、保有株式時価(非上場は純資産の保有割合相当額。みなし保有を含む)が連結純資産額の10%未満となるよう縮減する。
縮減状況 (2026年4月～2026年9月)	3銘柄(上場銘柄:0件、非上場銘柄:3件、売却額:約1.4億円)を縮減したものの、保有する上場株式の株価上昇により、連結純資産に対する比率は27.1%に上昇。

保有株式時価と連結純資産に対する比率



売却累計額



©2026 HAZAMA ANDO CORPORATION All rights reserved.

「政策保有株式の縮減」については、本中計期間の早期に、
保有株式時価が連結純資産額の10%未満となることを目指しております。

この上半期において非上場株式3銘柄を縮減しましたが、
保有する上場株式の株価上昇により、連結純資産に対する比率は27.1%に上昇しました。

引き続き、目標達成に向けて縮減の取り組みを進めてまいります。

Be a ChangeBuilder.
安藤ハザマ

本資料はIRのためのスライド集であり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料は株式会社 安藤・間の事業および業界動向についての株式会社 安藤・間による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性を含んでおります。

Be a ChangeBuilder.
安藤ハザマ